女性学

「フェミニズムの第三波」へ

女性学からジェンダー論への動き

金井淑子

今年の女性学は、『現代思想』1月号の「ジェンダー・スタディーズ」特集、その中で上野千鶴子・竹村和子のジュディス・バトラーをめぐるたいへんスリリングな対談があり、その待たれていたバトラーの『ジェンダー・トラブル』（竹村和子訳、青土社）が邦訳刊行されたことから始まっている印象が強い。「フェミニズムとアイデンティティの攪乱」を副題にもつ本書は、「フェミニズムの第三波」にどんなインパクトをもたらすのか。まだ日本のフェミニズムの言説状況では見えにくいが、バトラーと並んでゲイ&レズビアン・スタディーズをリードしてきたイブ・コゾフスキー・セジウイックの『クローゼットの認識論　セクシュアリティの20世紀』（外岡尚美訳、青土社）が前後してでている。日本でも「フェミニズムの第三波」への扉は用意された。

グローバル化の視点

西欧の白人女性中心のこれまでのメインストリーム・フェミニズム批判を「グローバル化」の視点から総括する問題提起の書として、メアリ・エヴァンス『現代フェミニスト思想入門』（奥田暁子訳、明石書店）とブラドッチ／チャルキエヴィッチ・ホイスラー／ワイヤリング『グローバル・フェミニズム　女性・環境・持続可能な開発』（壽福眞美監訳、青木書店）。エヴァンスは女性＝被害者と一義的に立てられない女性内部の差異やフェミニストの世界観提示の問題意識を明確に提示。日本のフェミニズムの理論的成果としては、志水紀代子・大越愛子編『ジェンダー化する哲学』（昭和堂）が、哲学というもっともファロクラティクな理論領域で、「慰安婦」や戦争責任さらに暴力の現実問題と哲学がどう思想的に向き合うかを突き付け、ジェンダーの視点からの「思想の読み」を提示する意欲的な取り組みである。江原由美子編『性・暴力・ネーション』（勁草書房）は、従軍慰安婦問題、女性兵士問題、国家と性暴力、女性性器手術問題などをめぐるポレミークな対立を取り上げ、フェミニズムの主張が一枚岩ではない状況、とくに国民国家とフェミニズムの関係、「グローバル・フェミニズム」への問題意識に迫っている。言説分析的アプローチからの「近代日本」のセクシュアリティの考察に一つの水準を画す重厚な研究が赤川学『セクシュアリティの歴史社会学』（勁草書房）。一八七〇年代から一九七〇年代までの一〇〇年間を対象として、収集しにくい資料に丹念にあたり、同時に分析方法に綿密な検討を加えたもので、オナニーに関する言説分析と、性欲・性に与えられてきた意味分析という二つの軸を設定し、「セクシュアリティの近代」とそのセクシュアリティを構成する「言説空間の全体性」に理論的な分析。

セクシャル・ハラスメントの事業主責任を明示した改正雇用均等法のスタートを背景に、浅倉むつ子『均等法の新世界』、『セクシャルハラスメント新版』はタイムリーな企画。また女性学のテキストとしては井上輝子『女性学への招待・新版』、国立婦人教育会館女性学・ジェンダー研究会編『女性学教育／学習ハンドブック新版』、井上輝子他著『ビデオでみる女性学』（いずれも有斐閣刊）、これらは大学での教材としてのみならず地域の学習者の場面での女性学の浸透にたいへん重宝。家族論では、山田昌弘『家族のリストラクチャリング』（新曜社）が、パラサイト・シングル論、標準世帯モデルの虚構性から家族の規制緩和の提言に及ぶものである。

わたしの読みの実践

女性学からジェンダー論への動きを背景、フェミニズム批評の新たな挑戦として海老根静江・竹村和子『女というイデオロギー　アメリカ文学を検証する』（南雲堂）は、著者がすべて女であるという偶然を「戦略的本質主義」としてつけられた題名で、「女」という記号を背負って存在しつつアメリカ文学を研究する。それぞれの「わたしの読み」の実践。ショア・ハイト『なぜ女は女が嫌いなのか』（石渡利康訳、祥伝社）は、女性のセクシュアリティを徹底的にリポートしてきた『ハイト・リポート』の著者の「母娘論」、女同志の関係について踏み込んだ問題提起に潜ちた書。『思想』10／11月号の竹村和子「あなたを忘れない」の母娘論にも注目。

また「男」というジェンダーへの考察にも意欲的な取り組みの成果をみた。西川祐子・荻野美穂編『［共同研究］男性論』（人文書院）は、フェミニズムの男性論が陥っていたある種のステレオタイプ化した議論や本質主義批判の問題意識も含む、男性のジェンダー化、射精する性の身体感覚の分析、男という存在の社会的規定性を、文化人類学・臨床心理学・言説分析・社会学・歴史学という広いパースペクティブから捉えようとする男性論への貴重な第一歩を記すものである。

書店の棚からはすっかり影が薄くなったかに見える女性学・フェミニズムだが、ジャーナリズムでの一時的消費を越えて「第三波」を射程においた着実な成果をとげつつある。（かない・よしこ氏　横浜国立大学教員・倫理学・女性学・ジェンダー論専攻）

ハイト